

出来ました。問題をゼロベースにとらえ直したからこそ、あたらしい解決策を見つけれられたわけです。

ちなみに、彼はこんな方法を考えました。

- ①食べる前にソーセージとパンを半分に割った。→囓んだり飲み込んだりする方法に幅が出たし、口でやっていた仕事の一部を手に任せられてラクになった。
- ②2つに折ったソーセージを片手で口に詰めながら、もう片方の手でパンをコップの水に浸せ、余分な水をギョッと絞ってから口に放り込んだ。→喉があまり渴かなくなり、水を飲む時間を節約できた。

## 2. 脳をだまし、限界を押し上げる

小林さんが最初の年に25本を一気に突破できたのは、それまでの記録を受け入れなかったからです。他の選手は25本くらいが世界の限界と決めつけていたのに対し、小林さんは違ったのです。最近の研究で、一流のアスリートが「だまし」によって成績を伸ばせたという実験結果があります。自転車選手にサイクリングマシンを全速力で4000m漕いでもらった映像を撮影します。二度目はその映像を見ながらやってもらいます。選手には映像は実際よりも速めに再生することを知らせず、その映像を見ながら漕いでもらおうと、一度目の自分の全速力を超えてしまったそうです。

「スピードの決め手になる器官は心臓や肺ではなく、脳である」ということが言えると思います。

## 3. 子供のように、アイデアを臆せず口にする

子供は知っていることがとても少ないから、ものごとのありのままを隠してしまう先入観をもちません。問題を解決しようとするとき、これが大きな強みになります。先入観があると、そんなのあるわけないとか、いやだとか、怪しいにおいがするからとか、誰もやったことがないからといった理由で、考えられる解決策の大部分を退けてしまいます。子供はどんな無茶なアイデアだろうと臆せず口にするものです。良いアイデアか悪いアイデアかは、後で考えれば良いこと。まずはアイデアを出してみることが大切なわけです。子供の教育問題について経済学者が中国で行った実験を紹介します。あなたが政治家で、子供たちの学力を上げようと思ったらどんなアイデアを出しますか？

- ・授業時間や宿題を増やす
- ・学外の塾へ行く補助金を出す
- ・先生の質を高める

実験で使ったのは、なんと「メガネ」でした。目の悪い生徒の半分にメガネを無料で提供したところ、1年後にはメガネをもらわなかった生徒に比べ学力が25～50%も向上したそうです。

以上のように限界を決めたり先入観を持ってことに臨むのではなく、いろんな視点から物事を見て、素直にいろんなアイデアを出してことに臨めば、更なる成長が期待できると思います。

## 雨の日のお迎え

### 鎌田善政社長



先日、イエローハット東郡元店の社員の結婚式に出席させて頂きました。結婚式当日の朝に読んだ南日本新聞の南風録に、編集者が出席した結婚式の新婦の手紙の中からこんな話が掲載してありました。【私が小さい頃、雨の日にはいつもお母さんが傘を持って向えに来てくれました。他の人達が車で迎えに来る中、「うちには車が無くてごめんね」とお母さんが謝るのですが、私にとってはお母さんと話しながら歩いて帰るあの時間が何よりも楽しみでした。だから私は今でも雨の日が大好きなんです。】

私の幼少の頃もとても貧しい生活をしてきましたが、自分の境遇を嘆いてもきりがありません。いかなる状況においても、歯をくいしばって頑張ろうという気概を持つことで道は開けていくのだと思います。社員一人一人が、どのようなことをすればお客様が喜んで下さるかということを常に考えながら、知恵を振り絞り、汗を流せるような人間になれば、自ずと会社は発展していきます。梅雨が明けるとますます暑さが厳しくなっていきますので、くれぐれも体調管理には気を付けて頑張ってください。

## ゼロベースから見直す成長策

### 鎌田安典専務



私たちは、どうしても考えの偏りを起こしてしまいます。しかし、そういう考え方の偏りを排除し、ゼロベースで考えることが大切です。本『0ベース思考』から、どんな難問もシンプルに解決!『0ベース思考』3つのコツを紹介いたします。

### 1. 「当たり前」を疑い、問題をとらえ直す

小林尊さんは、ホットドッグの大食い世界選手権初出場です。それまでの世界記録25本の2倍、50本をたった12分で食べきり優勝しました。なぜそんなことが可能だったのでしょうか。彼は問題をとらえ直したのです。ライバルたちが「ホットドッグをもっとたくさん食べるにはどうする?」と問いたてたのに対し、小林さんは「ホットドッグを食べやすくするためにはどうしたらいいか?」と問いたて、実験を重ね、フィードバックを収集して、ゲームのルールを書き換えることが